



創造 2012

IIZUKA JUNIOR CHAMBER, INC

<http://www.iizuka-jc.com/>

VOICE

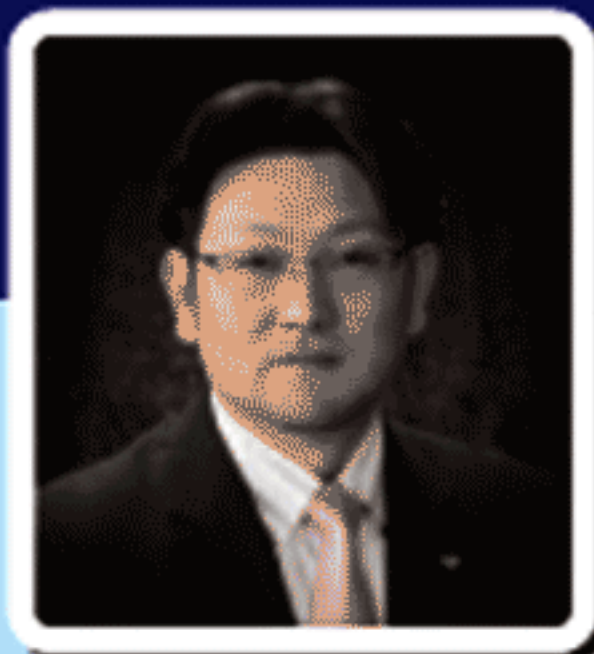


2012

IIZUKA Junior Chamber NEWS vol.57

INDEX

| | |
|-------------------|-------|
| 2012年度理事長所信 | 1P |
| 2012年度各委員長所信・会員紹介 | 2P~4P |
| 麻生氏 & 理事長対談 | 5P~6P |
| 2011年度活動報告 | 7P~8P |



1949年(昭和24年)9月3日、48人の有志達が戦後の荒廃した祖国日本の復興を目指し、日本の青年会議所運動は産声を上げました。

それから4年の歳月を経て、1953年(昭和28年)7月、ここ飯塚の地においても先の有志達と志を同じくする35人の有志が「一誠有」の言葉の下、明るく豊かな社会の実現に向けて集い、飯塚青年会議所は誕生しました。

本年度、社団法人飯塚青年会議所は創立59周年を迎えます。これまでの長い歴史の中で諸先輩方が築き上げられた偉大な功績はこの「まち」に今もなお息づいています。58年間、その途方もなく長い時間には先人達の熱い情熱とたゆまぬ努力の結晶が刻まれてきました。これは、私たち今を生きる現役メンバーにとって誇りとなっています。

私は2004年に入会し今年で8年目を迎えます。これまでの青年会議所運動を通して様々なご縁を頂き、自分自身を大いに成長させることのできる機会に恵まれました。

それは一重に、諸先輩方は勿論のこと、地域の方々のお陰であると深く感謝しています。

私は、出逢いと必然ではなく偶然であると強く感じます。しかし、その偶然を必然とするべく頂いたご縁を感謝せずにやり過ごしていれば何の意味もなくなってしまいます。現在、どれほどのメンバーがその偶然の出逢いに感謝を感じ行動しているのでしょうか。もはや青年会議所運動で知り得る人や情報は当たり前と感じているメンバーも少なくはないように感じます。入会した頃感じた気持ちをもう一度思い出し、緊張感を持ってその機会を頂いているという謙虚な姿勢、慎みを持ち行動することでこれまで以上に点である出逢いが繋がって線となりさらに、輪となるのではないかと感じます。これをJC運動に置き換えれば、点であるJCと地域が線で結ばれ輪となり「明るい豊かな社会」を創造出来れば、この「まち」の可能性を無限大に広げていく事が出来ると確信いたします。

◇人間力～己を信じて～◇

青年会議所はリーダーを育てる団体であると考えます。リーダーとはいくつかの資質が必要とされます。自分に欠けている資質を理解し、仲間と共に補い成長し、時代の先頭を走り道筋をつけ社会を牽引する使命が我々にはあるのではないのでしょうか。

そして、私たちJAYCEEは青年経済人として基本である礼儀作法など他の模範となるよう今一度見つめ直し、これまで以上に青年経済人としてJAYCEEとしての責任を自覚する必要があると考えます。また、JC運動は勿論のこと仕事上においても自らの立ち位置を十分に理解することは大変重要です。すなわち、一人ひとりが自分の役割、担いを把握しそれを確実に実行するという様な基本的な部分ももう一度見つめ直します。

また、誰しも大変な事からは逃げ出したいくなるものです。限界を自分で決めつけ、自分自身で納得しているのではないのでしょうか。しかし、真の限界は自分では見えないものだと私は思います。だからこそ、何事ももう一歩前へ前進し行動してみることが重要であると考えます。行動することにより気づく事の出来るものも多く有るのではないのでしょうか。

熱い情熱を持って入会した頃に志した想いをもう一度呼び起こし、一人ひとりが常に己の可能性を信じ、如何なることにも深く考え、悩みそして新たな道を創造し行動することにより成長していけば青年経済人として、JAYCEEとしての人間力の向上に繋がると確信いたします。

◇創造力～明るい未来を～◇

時代の流れは想像以上に速く、今必要とされているものを的確に捉える力、情報の収集はこれまで以上に重要な課題になってきます。

昨年も情報の収集・発信は各地行政の協力のもと行って参りました。そこで、本年度は今までに構築されたネットワークを十分に活かし、さらに地域に求められるような事業を創造し展開いたします。また、この地域の歴史や特徴を活かしつつ、未来の故郷を創造することで活気ある「まち」となる事と確信いたします。

いつの時代も明るい子どもの笑顔は地域の宝です。子どもたちの未来は希望に満ち溢れていなければ「明るい豊かな社会」は築けないと考えます。しかし、現代の混雑した社会状況下において子どもたちが未来に希望を持てるような社会では、なくなりつつあるのではないのでしょうか。まずは、私たち大人が次代を担う子ども達に残せるものを創造し伝えていく事が出来れば必ずや子どもたちにも「明るい豊かな社会」は創造出来るのではないのでしょうか。思い描くだけではなく創り出す行動力こそが明るい未来へと繋がる原動力となるのです。

子どもたちを地域全体で温かく育てるそのような地域にこそ、人は集まりいつまでも愛される故郷となることと確信いたします。

結びになりますが、東日本にて発生致しました大規模な震災及び原子力発電所の事故は皆様の記憶にも新しいかと思えます。それにより、今後の日本の経済の焦点は当面の間、東日本へと向って行くことは必至であります。だからこそ、我々は中央に頼らず自立して行かなければなりません。そのためには、JC運動を通して今以上に個人レベルの底上げを行っていき、時代に求められるJAYCEEそして経営者としてのスキルを身に付け、青年経済人として、我が国日本を思う一人の若者として、ここ飯塚から全国へ元気を発信して行ければ復興の足がかり、更には日本経済の復活の一助になると確信いたします。

そして、JCの基本理念である「明るい豊かな社会」を、今を生きる我々JAYCEE一人ひとりが創造しなければならないと考えます。「修練・奉仕・友情」の三信条を心底に抱き青年らしくどんな困難にも不撓不屈の精神で立ち向かい、全ての事象に感謝の念を持ち続け、驕る事無くいかなる場合も初心を忘れず行動すれば必ずや地域全体の活性化に繋がると強く確信し本年度一年間、全身全霊をかけて行動いたします。

【基本方針】

- 一、創造力と人間力の向上(全委員会)
- 一、情報発信・収集 VOICEの発行 HPの作成・管理
- 一、明るい未来に繋がる創造力豊かなまちづくり事業
- 一、明るい未来に繋がる創造力豊かなひとづくり事業
- 一、一般社団法人格への移行
- 一、飯塚JC存続の危機意識を持った会員拡大
- 一、ローカルマニフェスト検証に向けた取り組み
- 一、台東国際青年商會との交流・情報交換
- 一、人間力・創造力を高める例会運営
- 一、全国会員大会(北九州大会)副主管としての全員参加
- 一、60周年に向けた事前準備

ひとづくり委員会

委員長
塚本 大

ひとづくりにおいて、地域の繋がりや連帯感を基とした地域による教育が欠かせません。しかしながら、社会情勢の変化等に伴い、その繋がりや連帯感は段々と弱くなっているように感じます。例えば大人が自分の子であるなしに関わらず、悪いことをした子どもを叱ったり、危険がないように見守るといった機会が少なくなっていることが挙げられます。このような地域の繋がりや連帯感がなければ、その地域のひとづくりの環境は限定的なものになってしまいます。

そこで、地域において今まで以上に人々同士の顔が見える関係が増え、触れ合う機会が増えれば、地域の繋がりを強く感じることができ、地域のひとの輪が形成されると確信します。更に、この地域の子どもの事を思い活動されている、人と人をつなげ、この活動が継続される事を目指します。

ひとづくりの対象の中で最も大切な一つは「子ども」です。子どもは地域の未来を担う宝であり、その子ども達が希望に満ち溢れる未来を描けるように後押しすることは、地域による教育の一つだと考えます。そこで、我々JCメンバーが地域の人々との様々な協力の輪を広げてパイプ役となり、子どもが大人と共に未来を創造していくきっかけを作ることで、希望に満ち溢れる未来の創造を目指します。その中で子どもが大人と共に地域の誇りを知ってもらうことで、郷土愛を持った視野の広い子ども達が育っていくと確信します。

そして、我々も地域の人々や子ども達との交流を通じて共に切磋琢磨し、自分自身の人間力を向上させるように一年間邁進します。

また、当委員会では創立記念の企画・運営を担当します。諸先輩方、また会員同士との出逢いに感謝し、交流が深められるような場となるよう企画・運営を行います。

情報発信委員会

委員長
堤 考史

我々、社団法人飯塚青年会議所(以下飯塚JCとする)は、創立より58年間、この地域の為に活動してきました。「地域への想い」が込められた活動は、人の心を動かし、活気ある「まち」に変えていく力があります。

毎年のJC運動は、ホームページやVOICEなどにて、広報活動を行っています。本年度は、さらに、地域の方々に伝えることができ、参加・協力が得られるよう取り組んでいきます。

そして、JC運動は地域に求められる活動であるべきだと考えます。その為には、飯塚JCのメンバーが、地域を知ること、情報の収集が重要であり、地域に求められる事業の創造には不可欠です。地域のために活動している行政の関係部署や各種関係団体とのネットワークを活かし、地域の課題や必要とされていることを知ることは大切な情報収集です。飯塚JCが、円滑に情報収集できるように務めていきます。

さらに、情報発信には、JC運動の広報だけでなく、「まち」のPRなど様々な情報発信も含まれます。我々の地域は、開通から400周年を迎える長崎街道宿場町やかつての日本を支えた筑豊炭田、シュガーロードで知名度のあるお菓子のまちなど様々な魅力ある歴史や特徴があり、大きな可能性を秘めています。その様々な魅力(=情報)を、より多くの地域内外の方々に伝える情報発信は、多くの人々を集め、さらなる活気ある「まち」につながると確信します。

当委員会は、飯塚JCの「地域への想い」が込められた活動をひとりでも多くの方々に広報できるように活動します。そして、情報収集を通じてメンバーの「地域への想い」を集め、「まち」の魅力を考え、創造し、ひとりでも多くの方々にこの「まち」の魅力を知って頂き、活気ある「まち」につながるような情報発信をしていきます。

また、当委員会では創立記念の企画・運営を担当します。諸先輩方、会員同士との出逢いに感謝し、交流が深められる場となるよう企画・運営を行います。さらに、ローカルマニフェスト検証に向けた取り組みも行います。

一年間、己を信じ仲間と共に、不撓不屈の精神で行動していきます。

山笠アカデミー委員会

委員長
楢 重之

このまちには、今から42年前に社団法人飯塚青年会議所(以下、飯塚JCとする)の諸先輩方の多大な努力と、熱い想いをもって復活させた「市民祭飯塚山笠」があります。しかし同じ地域である嘉麻市や桂川町

の人たちの話しを聞くと、聞いたことはあるが見たことはないという声が多いことが現状です。そこで当委員会は山笠振興会に出向し、5つの流から出向される方々と共に山笠について考え、共に協力し、二市一町の人たちへと広くPRしていきたいと思えます。二市一町の人たちに広く知って頂くことで来場者が増えれば、このまちの活性化に繋がることと確信致します。

私は飯塚JCに入会したことで、さまざまな青年会議所の仲間たちと出会い信頼できる仲間をつくることができました。この出会いこそ青年会議所の魅力だと考えます。こんな多くの仲間と出会える場所に、一人でも多く入会して頂きたく会員拡大運動を行います。このためには委員会メンバーはもちろん飯塚JC全員で同じ志を持った人材の紹介や情報を収集し、飯塚JC存続の危機意識を持ち委員会メンバー一丸となり、今後の飯塚JCがより活発に運動ができるように会員拡大を行って参ります。

そして、当委員会は新入会員の方が初めて属する大事な委員会となります。そこで、このまちの多くの人たちが待ち望んでいる灯明をアカデミー事業として行い、現委員会メンバーと初めて事業を経験する新入会員が企画・運営し助け合うことで共に成長し、信頼できる仲間が出来たと実感して頂く事業になることを目標とし、飯塚JCに入会して本当に良かったと思っけるような灯明事業を目指します。

また当委員会では本年度の第一回目の事業、三人行事の一つでもある新春祝賀会を企画・運営致します。この新春祝賀会では、地域の方々と諸先輩方、また多くの来訪JCの方々に2012年度飯塚JCの運動内容や方向性を伝え、緊張感を持ちスムーズな運営を目指します。

まちづくり委員会

委員長
渡部 雅文

我々、社団法人飯塚青年会議所(以下、飯塚JCとする)はこれまで、明るい豊かなまちづくりを目指し、様々な運動を行って参りました。

私自身が青年会議所に入会し、地域に対する様々な事業を通じて改めて気付かされたのは、コミュニケーションの大切さです。このコミュニケーションが、人と人とのつながりを創り、まちを創り、地域を活性化させるのではないかと考えます。近年では、情報端末を通じたコミュニケーションも盛んになっていますが、私が思うコミュニケーションとは、やはり人と人がふれ合い、共感し合い、感情を直に表現し伝えることだと思えます。

そこで、我々まちづくり委員会では、地域・行政の方々と共に創造するまちづくり事業を行います。このまちには、歴史的な文化財としての長崎街道や炭鉱産業の遺産が色濃く残っており、様々な特色を持っています。それらは、先人達の残してくれたこのまちの大切な宝です。このようなまちの良さ、そして、人と人とのつながりの大切さを再認識して頂き、明るい豊かなまちづくり事業を企画・運営致します。それにより、自分達のまちは、自分達で創るということを実感して頂き、活気あるまちづくり、未来へつながるまちづくりを考え創造できれば、今後も住みたくなる「まち」の一助になると確信致します。

また当委員会では本年度の第一回目の事業、三人行事の一つでもある新春祝賀会を企画・運営致します。この新春祝賀会では、地域の方々と諸先輩方、また多くの来訪JCの方々に2012年度飯塚JCの運動内容や方向性を伝え、緊張感を持ちスムーズな運営を目指します。



委員長
新川 修

例会とはJCI運動の基盤であります。すなわち社団法人飯塚青年会議所全メンバーの絆を醸成する場であり、活発な意見交換をとおして自身の見識を深め、市民社会の一員として、また一人の青年経済人としての責任を自覚する場であるべきだと考えます。

「明るい豊かな社会」の実現という理想の下に集まったメンバー同士が、交流と議論をとおして互いに磨きあうことで、理想を実現するための情熱を更に強く熱くできるものだと思います。

本年度、私たち例会委員会はメンバーの交流に主眼を向けつつ、各委員会の行う事業が、全メンバーの連帯と情熱を持って取り組めるような一体感を作りたいと考えています。

交流とは、同じ場所にいるだけでは図れません。その場に参加した人間が相互に情報・意見・行動のやり取りがなければなりません。他者の考えを理解し、自身の考えを示すことを繰り返す事で、互いの理解を深めることができ、その結果として絆が強くなるのだと思います。このことは、メンバー同士の一体感を生むだけでなく、各人の人間力を高め、リーダーとして成長していく一助となります。互いに理解しあえる仲間がいるということは、JCI運動に参加する一つの大きな動機になるものだと確信します。

毎月全メンバーが一同に会する例会が、そのような交流が行われる場となり、元気なときには仲間と会える喜びを、悩み苦しむときには活力をもらえる場となるように、委員会メンバーのみならず、様々な方の意見を集めて、魅力ある例会の企画運営を目指して参ります。

式典につきましても、JAYCEEの一員として、都度気持ちを新たにできるように、厳粛な式典運営を行います。

例会への積極的な参加を促すため、各委員会との緊密な連携をとり、出席率の向上を図ります。

また、当委員会のもう一つの担いであり忘年会におきましては、卒業される方々のこれまでのJCI運動を称えとともに、現役メンバーは一年間を振り返り、卒業される方々の熱い想いを継承し、これからのJCI運動に活かして頂ける場となるように企画・運営致します。



委員長
岡部 稔

社団法人飯塚青年会議所（以下、飯塚JCIとする）は新たなスタートを迎えようとしています。

2008年12月に施行された公益法人制度3法により、2013年11月迄に、公益社団法人・一般社団法人のどちらかを選択しなければいけなくなり、飯塚JCIは昨年度6月の臨時総会にて、一般社団法人格の取得を目指すよう決議され、本格的に一般社団法人格取得への準備を進めていく旨になりました。

総務委員会では「一般社団法人飯塚青年会議所」の礎となる定款・運営規程の見直し及び変更を現在の定款の記載方法や運営規程の設定方法及び今の青年会議所の方針や考え方に沿って、作成していきたいと考えております。定款とは社団法人の組織活動の根本規則である為、それだけに慎重に作成する必要があります。そこで当委員会では、現在と先を見据えて作りこまれた定款、メンバーが円滑に活動できる運営規定を目指し作成を行ってまいります。

総会の運営・管理・総務関係諸業務に関しましては、飯塚JCIの基盤を成す部分でありますので厳正且つ確実に実施いたします。

尚、総務委員会は準会員オリエンテーションという担いをもっております。入会を希望する方を品格ある正会員へと指導していきたいと考えております。

台東国際青年商會との交流及び情報交換に関しましては密に連絡をとりながら、歴代の先輩方が築いた台東との絆を絶やさず、更に友好を深め今後も絆をつなげていくべく努力いたします。

また、当委員会のもう一つの担いであり忘年会におきましては、卒業される方々のこれまでのJCI運動を称えとともに、現役メンバーは一年間を振り返り、卒業される方々の熱い想いを継承し、これからのJCI運動に活かして頂ける場となるように企画・運営致します。



室長
久保井英樹

本年度、社団法人飯塚青年会議所（以下、飯塚JCIとする）は創立59年目を迎えます。今日まで、この「まち」の皆様と共に歩み、築き上げられた道のりは余りに長く、諸先輩方の残してこられた数々の功績は時代が変わった今もなお、この「まち」に息づいています。今までも、そしてこれからも、この「まち」と共に活動していく為に、大きな節目である60周年を目前に準備室を設け、来る周年事業に備え、あらたに「明るい豊かな社会」の実現に取り組んでまいります。

当準備室には大きく2つの担いがあります。担いのひとつは本年度、北九州JCI主管にて開催される第61回全国会員大会の支援です。この全国会員大会は日本JCIにおける国内最大級の大会であり全国から1万人近くのメンバーが一堂に集います。このような大きな大会を身近に体感することはなかなか出来る事ではありません。副主管である福岡ブロックのLOMとして、北九州JCIと心をひとつに合わせ成功に導いていけるよう全力を尽くしてまいります。また入会年数の浅いメンバーにもLOMでは出来ない貴重な経験を通じ、メンバー間の絆を深めJAYCEEとしての成長の糧へと繋げます。そしてもうひとつの担いが、室名の通り60周年の準備として記念誌の編纂に向けた情報収集、並びに記念事業の準備です。これまでを振り返りつつも常に前を向いて行動する。その姿勢こそが今日の飯塚JCIの礎となっていると確信します。来年度の事を言うときが来ると言いますが、目標を持って行動するのとはしないのでは結果が大きく違ってきます。メンバーに秘めている可能性を大いに引き出す「人間力」「創造力」豊かな事業を模索いたします。

結びとして、現在の景気低迷した社会情勢の中、JCIをやっている場合ではないとよく耳にします。しかし、こんな時代だからこそ己を信じ、前のめりになってこの「まち」を引っ張っていく気概が必要です。大好きなこの「まち」の為に、持てる力のすべてを尽くして明るい未来を、そして元気な故郷創造に尽力いたします。

JCI 2012年度 会員紹介

| | | | | |
|--|--|---|---|---|
| 理事長 桑野慎吾 <small>前野野電気工事</small> | 副理事長 室井秀行 <small>前室井自動車工業</small> | 副理事長 藤木秀憲 <small>フジキ印刷</small> | 副理事長 山室 透 <small>昭和塗料</small> | 専務理事 國武裕仁 <small>前スガノワッククワイイ</small> |
| 常任理事 藤原昌直 <small>前藤原昌直</small> | 常任補佐 齊藤壮史 <small>斉藤造園</small> | 事務局長 大塚正博 <small>前三信ビル管理</small> | 事務局長次長 宗 和彦 <small>やしほ製粉</small> | 監事 榎木雅人 <small>榎ケンテック</small> |

| | | | | |
|--|--|---|--|--|
|  監事 多田 勉 株式会社多田組 |  監事 谷口正知 株式会社コーシーリング |  監事 清水幸浩 株式会社清水建設 |  監事 畑中規一 株式会社畑中食品工業 |  監事 深田陵市 株式会社深田観光 |
|  ひとづくり委員会 委員長 塚本 大 株式会社中央産業 |  ひとづくり委員会 副委員長 麻生将豊 株式会社エクストーン |  ひとづくり委員会 石原由香 株式会社C&A |  ひとづくり委員会 江藤裕仁 株式会社トーン |  ひとづくり委員会 川波俊二 株式会社トラベルウィズ |
|  ひとづくり委員会 駒山 晃 株式会社駒山 |  ひとづくり委員会 白附友和 株式会社佐藤測量設計院 |  ひとづくり委員会 鷹野雄司 タカノ美容医療院 |  ひとづくり委員会 中村和也 株式会社中村建設 |  ひとづくり委員会 濱本誠二 株式会社濱本建設 |
|  ひとづくり委員会 福田祐一 株式会社福田電気商会 |  ひとづくり委員会 森 浩昭 株式会社森 |  情報発信委員会 委員長 埴 考史 株式会社セシモニー |  情報発信委員会 副委員長 木下 太 株式会社東京食品 |  情報発信委員会 岸田貴靖 株式会社三協技研 |
|  情報発信委員会 重松将貴 株式会社ダイハツ販売(株) |  情報発信委員会 田代陽子 株式会社タニインダストリアル |  情報発信委員会 塚原大悟 株式会社めがねのツカハツ |  情報発信委員会 寺濱剛史 株式会社エス・シー・エム |  情報発信委員会 長岡敦史 株式会社ジェイ・イー |
|  情報発信委員会 古田明裕 株式会社古田製菓 |  情報発信委員会 山口孝敏 株式会社写真の和光 |  山梨アカデミー委員会 委員長 椿 重之 株式会社中本不動産 |  山梨アカデミー委員会 副委員長 樺島玄陽 株式会社電王ガス |  山梨アカデミー委員会 今吉義之 株式会社アイジャパン |
|  山梨アカデミー委員会 片平秀一 株式会社三平 |  山梨アカデミー委員会 小林隆一 (株)小林組子 |  山梨アカデミー委員会 高崎英徳 株式会社高崎クレーン |  山梨アカデミー委員会 多賀谷勇気 株式会社イオス |  山梨アカデミー委員会 野中重司 株式会社元代自動車整備工場 |
|  まちづくり委員会 委員長 渡部雅文 株式会社「KOKORO」 |  まちづくり委員会 副委員長 村岡智弘 株式会社村岡食品 |  まちづくり委員会 赤坂昌紀 株式会社赤坂 |  まちづくり委員会 小山 寛 株式会社小山建設 |  まちづくり委員会 梶原雅彰 株式会社ミヤビ総合防水 |
|  まちづくり委員会 狩野喜彰 株式会社狩野 |  まちづくり委員会 神田 顕 株式会社神田 |  まちづくり委員会 久保頼貴 株式会社久保自動車 |  まちづくり委員会 國米征吾 株式会社インテリアコクマイ |  まちづくり委員会 小林雄二 株式会社おぼろけじゅん |
|  まちづくり委員会 武本一利 株式会社C.F.C. company |  まちづくり委員会 野上健一 株式会社DEEP |  例会委員会 委員長 新川 修 株式会社新川工業 |  例会委員会 副委員長 玉置一貴 株式会社玉置 |  例会委員会 今泉 渉 株式会社今泉 |
|  例会委員会 岩本達也 株式会社イワケン工業 |  例会委員会 坂口天志 株式会社坂口建設 |  例会委員会 外山武志 株式会社KMG |  例会委員会 原中茂雄 株式会社KRC桂川 |  例会委員会 淵上拓也 株式会社バームハウス |
|  例会委員会 古谷和雅 株式会社古谷金物店 |  例会委員会 穂坂貴彦 株式会社穂坂建設 |  例会委員会 松岡伸治 株式会社アンシン |  総務委員会 委員長 岡部 稔 株式会社初音 |  総務委員会 副委員長 古賀浩一 株式会社セントコーポレーション |
|  総務委員会 有馬武文 株式会社有馬クレーン |  総務委員会 有光弘好 株式会社有光 |  総務委員会 江藤晃輔 株式会社エトウ時計店 |  総務委員会 野上智司 株式会社のがみ組 |  総務委員会 福澤慶之 株式会社上野建設 |
|  総務委員会 三木祐太 株式会社三木 |  60周年特別準備室 委員長 久保井英樹 株式会社クボイ |  60周年特別準備室 副委員長 戸田 徹 株式会社カネコ建設 |  60周年特別準備室 奥野敬之 株式会社カイト |  60周年特別準備室 斧山有史 株式会社はなみ建設 |
|  60周年特別準備室 鐘ヶ江 勲 株式会社鐘ヶ江 |  60周年特別準備室 小松佳弘 株式会社小松建設 |  60周年特別準備室 西川耕司 株式会社西川建設 |  60周年特別準備室 山喜多洋志 株式会社イブカンパニー |  休 会 西 竜 太 郎 株式会社西竜 |

麻生太郎 × 室井秀行

あ そう た ろう

むろ い ひで ゆき

室井理事長

今年は飯塚JCの活動に多く参加していただきありがとうございます。

今日は、麻生代議士から大きく分けて二つの題材で色々なお話を聞かせていただきたいと思います。

まず一つ目は、日本から見た筑豊地区についての話を聞かせて下さい。



麻生代議士

筑豊全体でいえば、九州トヨタが筑豊に出てきたこと。「筑豊の発展なくしては福岡の発展なし。」亀井光元知事が言われた言葉ですけど、実際に達成出来た時は麻生渡元知事の時ですね。筑豊の代表的な企業でいけば、やはり、九州トヨタではないでしょうか。この九州トヨタの生産は日本でも、名古屋に次いで二位の生産を誇っていますからね。

室井理事長

私は、嘉麻市出身ですが、飯塚市と嘉麻市を比べると、飯塚市は交通の機関が良いし、医療も充実していると思うのですが、このような事は何故良くなっていくのですか。

麻生代議士

簡単に言うと、アイデアが必要。アイデアがあつて、実行する政治の力。この二つの力があれば街は変わっていく。例えば、政治力で九州工業大学を飯塚に建設するという事は不可能であります。

飯塚に九州工業大学を建設させたのは、あなた達の先輩である青年会議所のメンバーから、筑豊に国立大学を作れば、若い人が増え地域の活性化に繋がるというアイデアを聞いて、私のマニフェストに国立大学の誘致と書いて、翌年の12月の予算で調査費が国から出たという流れで、今の九州工業大学が飯塚にある。やはり、あなた達のような若い青年がアイデアを沢山出す。そして、政治家がそれを実行する。この流れが街を変えていく近道ではないでしょうか。若い人たちは、思いもつかないような斬新なアイデアを出してくれませんか。

例えば、今から行っていかなければならないのは、山の中などに住まれている高齢者の方々を飯塚の本町商店街や東町商店街の空中権を県や市が購入して、高齢者用マンションや老人ホームを建設する。そうすると高齢者の近くに毎日人が居る、会話をする環境(コミュニティ)を創る。そして、使用していない場所に看護師を24時間体制で待機させて、脈と血圧と血糖値を毎日調べる。何か変わったことがあれば、看護師の資格のある人であ



それと、九州工業大学の存在は大きいですよ。携帯電話の画面が2画面になったりするのは、彼らが考えたノウハウです。そのような事から考えると、昔の飯塚を見ていた人が久しぶりに飯塚に来てみると、田川からのトンネルが開通していたり、芳雄橋が綺麗になっていたり、飯塚の街全体が綺麗に変わっていったというイメージが他の市から見るとあると思います。

そのような変動は、住んでいる私たちよりも市外の方々が、飯塚や筑豊全体のイメージが良くなったと理解されていると思います。

れば、異変に気づくことができる。何か異変があれば、直ぐに近くの医療機関に診せることができる。そうすれば、救急車の出動回数も減り、日々の検査ができていない為に医療費も抑えられる。そして、毎日検査を受ける為に商店街を歩く、そしたら人通りが増える。商店街が活性化する。

一方では、高齢者が今の住まいから離れない理由は何かと考えると、農地だと思います。農地のある方々は何故、農地を手放さないかという、農地を他の耕作者に貸せば、いつの間にか農地を取られてしまうという懸念があるのではないのでしょうか。一つの方法として、この農地を県が県知事名義で借りる。そして、県から別の人に貸す。県が仲介して他人に貸す。

そうすると土地を持っている方々は、安心して貸すことができる。そうすると農地整理が進む。そのようなアイデアを実際に行うことで、街のサービス産業が進み、コスト減になり農林地域の活性化にも繋がっていくと私は思います。

室井理事長

私たちの活動範囲である2市1町にとって、青年会議所の存在意義は何だと考えられますか。

麻生代議士

私が会頭をさせていただいた当時は、市民アンケートや住民アンケートというのは無かったのですが、少し前は青年会議所が主体となって、アンケートや住民調査等を行ったことがありました。今は情報が発達していることからアンケートや住民調査が必要とされていない傾向があると思います。しかし本当に必要とされていないながらもサービスが



無いものを青年会議所が考え行動する。

例えば、山笠にしても今までの先輩方が各流れに所属しているから、その先輩達に任せて、あなた達現役メンバーが今まで山笠に使っていた能力を別の場所へ向けてみるというのも良いかもしれませんね。先程例題であげた商店街の活性化のために住民アンケートを行って、問題点や困難となることを調べて市と協議していく。これもあなた達若い青年が柔軟な考えで行えば、良い方向に向かっていく可能性もあると思います。

色々な所で斬新なアイデアを聞きますが、そのアイデアを出したのは青年会議所出身の政治家の方が多いと聞きます。アイデアなくしては発展もないので、斬新なアイデアを沢山出して欲しいと思います。それが地域の活性化にも繋がっていくと思います。

これからもまちのため、地域のために頑張っていくって下さい。



Profile

昭和15年9月20日生まれ

麻生太郎(あそう たろう)

昭和54年10月 衆議院議員に当選
平成15年 9月 総務大臣
平成17年10月 外務大臣
平成19年 8月 自由民主党 幹事長
平成20年 9月 第92代内閣総理大臣

2011年度活動報告



唯一無二の存在を目指して

まちづくり委員会

委員長 高崎 英徳

まちづくり委員会では、明るいまちづくりを目指し一年間、頑張りました。委員会メンバー全員で考え、行政が抱えている問題でもあります、少子化・定住化問題に着目し、8月7日にランドパーク飯塚第1ポウルにて、「飯恋de愛ましょう」と題して、婚活事業を企画しました。この婚活事業を通して出会いの場を提供し、この地域に関心を持って頂き、このまちの定住化や後継者の結婚対策等を促進し、地域の活性化を図る事を目的としました。その結果2組のカップルが誕生することができました。今後この問題は、他団体、行政、市民が一体となっておこない、地域まちの活性化に繋げて頂きたいと思っております。最後に一年間、玉村監事、久保副理事長、渡部副委員長、委員会メンバーには、本当に力不足で迷惑をかけました。今後今年の反省を活かし、頑張っていきたいと思っております。今年のまちづくり事業に於いて、

ご協力・ご支援・お力添えをいただいた全ての方に、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。



会員拡大アカデミー委員会

委員長 外山 武志

本年度会員拡大アカデミー委員会では、飯塚J.C存続の危機意識を持った会員拡大と新入会員メンバーが高い志を持って自分達の手で故郷に新しい観光地を開拓する。この2つの目的の為に1年間、メンバーと活動してきました。

会員拡大に関しては、飯塚J.Cの皆様にも多大なるご協力を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。皆様のおかげで、多くの新入会員を迎えることができ、会員拡大につながったと思っております。

その新入会員メンバーと、「内野宿秋のさくらまつり」～うちのコスモス見にきちゃらんね～を企画し、9月24日に行政、地域住民の方々と共に本事業を実行いたしました。



事業当日には晴天にも恵まれて1500もの人に内野宿に足を運んで頂きました。筑豊地区からはもちろん、福岡市内や北九州市内から訪れる人もいました。マスコミからの取材依頼も多数頂き、内野宿

では過去最大規模のイベントとなりました。

内野の方々にとっても、今後の発展の為に良いきっかけとなり、行政にとっても内野宿の存在というものを今一度、再認識して頂ける機会になったのではないかと思います。また何よりも、行政と内野の方々から笑顔で「本当にありがとう、1年間お疲れ様でした。」というお言葉を頂いたことが、本事業が成功した証だと確信するとともに、「やってよかった」と心から思いました。

今回、大変いい結果が得られたのも、委員会メンバー全員が協力しながら、今自分に出来ることを考え、率先して行動してくれたからだと思っております。委員会メンバー全員、この経験がこれからのJ.C活動に必ず活かしていけると確信しています。

最後になりますが、メンバーの皆様には、本事業に何度もご協力いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

情報発信委員会

委員長 寺濱 剛史

私たち情報発信委員会は、2011年度第一回目の事業となる新春祝賀会を企画・立案いたしました。この新春祝賀会では、第58代室井理事長が掲げられた「志～唯一無二の存在を目指して～」のローガンを地域の方々や諸先輩方、また、同じ志を持つ仲間である他J.Cの方々に2011年度の飯塚J.Cの活動指針の発信ができ、良いスタートが切れたと確信致します。



そして、ここ数年間嘉麻市で事業を行っていませんでしたが、11月5・6日と2日間に亘る「嘉麻ふれあいまつり」にて飯塚J.Cの活動や存在の発信を目的とした事業を行いました。最初は商工会と間違われることもありましたが、最後には飯塚青年会議所という存在や活動指針を理解していただいたと感ずることが出来ました。また、その「嘉麻ふれあいまつり」の中で、3月11日に起きました東日本大震災の被災地や被災者に遠く離れた地、福岡から少しでも勇気や元気を与える出来ることはないかと考え、青年会議所のネットワークをふるに活用し、様々な方々の協力を得て、チャリティーオークションを開催致しました。この支援については、震災が起こった翌日の3月12日より街頭での募金活動や物的支援の集大成とし多くの義援金を東日本へ送ることが出来ました。

最後にこの一年間、多くの方々へご迷惑と多大なるご協力をいただいたことをこの場を借りて感謝申し上げますとともに、今後も今までは変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本当に一年間、ありがとう御座いました。

山笠委員会

委員長 久家 渉

以前は飯塚青年会議所主導で行われていた飯塚山笠振興会でしたが、数年前より歴代の山笠委員長は振興会事務局長や振興会委員長を主導とした組織作りを進めて参りました。

本年度は昨年度以上に振興会委員長に運営と運行に自覚を持って貰い、収支の管理、各イベントの運行、各種資料の作成や各委員会との横の繋がりの大切さを訴えて参りました。

山笠委員会全てのメンバーが私の考えを理解して頂き、振興会、飯塚市や各流れに対して私の思いを訴えた結果、より市民祭としての飯塚山笠を運営することが出来たと確信しております。次年度以降も本年度以上により市民祭として、各ボランティア団体や学園都市である飯塚市らしく、学生が山笠の運営に携わって頂ける様な山笠運営を企画立案して頂きたいと願っております。

また、今年は実現することが出来ませんでした。飯塚山笠追い山の休日開催を目指し、頑張りたいと思います。



青少年育成委員会

委員長 深田 陵市

今年度、委員長をさせていただき、改めてリーダーシップというものを学びました。一人の力では何も出来ません。メンバーに手伝っていただくには、まずは自分が行動することや、メンバーに対する言葉がけ一つひとつの重要性。自身が思っていることや感じていることを人に伝えることの難しさ、文章力なども学ばせていただきました。

また、委員長という役職もあり様々な経験をさせていただきました。青年会議所に所属していないとお会いすることも出来ないような人とお話しすることも出来ましたし、プレゼンテーションなどの経験もさせていただきました。メンバーの代表として人と会うことや言葉を発することで責任感なども身に付いたと感じております。

今年度、学んだことや経験したことは必ず自身の向上に繋がったと思います。今後はこの経験を青年会議所運動はもちろん、仕事にも活かしていきたいと思



す。

最後に、今年1年間多くのご協力をいただきました皆様、この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

例会委員会

委員長 湊谷 一弥

今年度、例会委員会は「魅力ある人間へ！」と題しまして、LOMメンバー1人ひとりが魅力ある人間（ひと）として様々な知識や感性を身に付け、また感じていただけるように例会運営を行って参りました。

魅力ある人間とは、何事においても真摯な態度で前向きに考え行動し、人を心から思いやり気遣いの出来る人間（ひと）ではないかと考え、委員会メンバー全員で知恵を出し合い、緊張感ある厳粛な式典運営と各委員会やLOM内の絆が深まるように

魅力あるアットホームなアワー内容となるように務めました。全ての例会において、その事をLOMメンバーの皆さんに気付かせて頂き、きっかけを与えることは非常に難しいことではありましたが、1月から11月にかけて行なった例会の中で感じていただけたのではないかと思います。

また、今年は東日本大震災が発生し、現代の日本人が経験した事のない自然災害が起きた年でもありました。このような事態が起きた時こそ、日本全体で考えるべき事象であり助け合う事が重要であると考え、10月の公開例会「未曾有の大災害、東日本を風化させないために・・・」において、被災者自らが語る被災体験を聞くことで被災地へ向けて支援の輪が広がり、自分事のように感じていただければと思います。

一般の来場者へは、企画した私たち例会委員会の思いと同じような気持ちに届き、開催した意味が本当にあった事業でありました。

1年を通して毎月行なう例会の大変さはありますが、

JCライフを満喫出来るのも例会委員会ならではのものであり、充実した活動を行う事が出来ました事に改めて感謝致します。

今年1年間の例会において、参加して頂いた方々に心からお礼と感謝申し上げます。また、委員会メンバーにおいては、本当に1人ひとりがしっかりと考え、各々の意見をもちて委員会へ参加して頂いた事で、今年の例会を全て無事に終える事が出来た事に感謝致します。

LOMメンバーの皆様、本当にありがとうございました。



総務委員会

委員長 福澤 慶之

本年度総務委員会では総務諸業務の他に法人格の選択、灯明事業を行いました。法人格の選択に関しては一般社団法人を取得することで決まりましたが、定款の変更などやらなければならないことが多々あります。次年度に引き継ぐかたちになりますが、本年度担いを受けたものとして最後まで行ってまいります。

また、灯明事業に関して本年は子どもに焦点を当て、灯明をはじめイベントなど1日を通して子どもたちが楽しめることをテーマにメンバー一丸となって行いました。今後灯明を行うに当たって小さいころから灯明というものを知ってもらわなくては、灯明が楽しいものと認識してもらわなければならないからです。事業の前日は雨に見舞われ開催も危ぶまれましたが何とか開催ができましたが、当日も若干雨が降り大丈夫かなと心配もしました。しかし多くの子供たちが悪天候の中会場に足を運んでいただき、1日を通して絶えず子どもたちの笑顔・楽しそうな声を見れたことで今回メンバーにはかなりの負担をかけたがやってよかった。また子どもたちに灯明というまつりが飯塚にあるということ強く印象付けたのではないかと考えます。

最後に本年度総務委員長に任命していただきました室井理事長をはじめ執行部の皆様本当にありがとうございました。また多々ご迷惑をおかけしまして本当に申し訳ありませんでした。今年はいろいろな気づき・学びを経験でき、またいかに自分が

甘かったを強く感じた1年でした。この経験を生かし今後の青年会議所活動を行ってまいります。本当に1年間ありがとうございました。



2011年度 新入会員からの感想



榊島 玄陽

自分の青年会議所への入会のきっかけは、会社から言われてのことでした。そのようなわけで青年会議所がどのような団体なのかよく知らないままの入会でした。

しかし実際に入会し、委員会や例会に参加し、他のメンバーの方との交流をとおして沢山の刺激を受けることができました。

飯塚青年会議所のメンバーは個性豊かなメンバーが揃っていますので、更なる刺激が期待でき、それが自分の成長に繋げることができればと思います。



宗 和彦

1月に飯塚青年会議所に入会して、業種を超え多くのひとと出会うことができました。

この「まち」について業種を超え、会社での役割を捨て、真剣に考え、議論し合える場であり、様々な意見を聞くなかで、ひととして社会人として大きく成長できる場でもあると思いました。そして何より、自分にとって沢山の仲間という財産をつくる場でもありました。

青年会議所は40歳で卒業を迎えます。限られた時間の中で悔いの残らないよう、JCライフを送りたいと思います。



玉置 一貴

飯塚青年会議所に入会して感じたことは、各メンバーが地域のことを考え、議論し、よりよい活動を行うために何が必要かを真剣に考えていることです。会社経営を行う中で、地域への貢献を行うことは当然のことだと思います。しかし、地域活性化のために、会社から離れ、同じ境遇のメンバーと接点を持ち、時間を共有することは、会社では得られない経営者としての感性を磨くことができると思います。自分に足りないものは何なのか、飯塚青年会議所での活動を通して、人から学び、自己の成長へと繋げていきたいと思っています。



濱本 誠二

私が飯塚青年会議所に入会し、まず一番に感じるのは人との繋がりで。

それはメンバーと知り合い、地域での活動をする中で今まで以上に感じる事が出来ています。私はこの地域の出身ではない為、知り合いといえば会社に関係する人ばかりでしたので、仲間が増えとてうれしく思っていますが、馴れ合いだけの関係だけでは無く、個の意見を持ちつつ人の色々な考え方を知り、地域貢献活動を行う事でメンバーのみなさんと共に学び成長していきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

社団法人飯塚青年会議所

会員募集

青年会議所 (JC) は「明るく豊かな社会」の実現を理想とし、時代の担い手たる責任感を持った20歳から40歳までの、指導者たらんとする青年の団体です。私たちは現在、国内704余りの都市に約3万6千人の会員を、全世界107カ国地域に17万人以上の会員を擁しています。

青年会議所の事業目的は「社会と人間の開発」です。

私たちは市民社会の一員として、市民の共感を求めて社会開発計画に基づいた活動を行い、「自由」を基調とした民主的な指導能力の開発を推し進めています。

青年会議所は20歳から40歳までの情熱ある青年の団体です。

(社)飯塚青年会議所は、あなたの力を求めています!

私は、青年会議所について聞かれた時「青年会議所はまちづくりとひとづくりを行う団体です」と答えています。青年会議所はこれによって考えています。家庭・学校・企業等、これらは全て「ひと」によって成長して行きます。そして、私達の生活している「まち」も「ひと」によって構成されています。青年会議所は40才までの団体であり、そのわずかな時間の中で「まちづくり」を行うことは大変難しいことです。しかし、いろいろな事を経験し、体験することで「私」という「ひとづくり」を行い、「豊かな考え」のできる「ひと」に成長すれば、それが「豊かなまちづくり」につながるのです。青年会議所の活動は「もの」をつくる町づくりではなく、「ひと」をつくる町づくりです。青年会議所とは40才までにやり遂げる団体ではなく、入口なのです。

●対象者● 飯塚市、嘉麻市、桂川町に住所または勤務先を有する20才から37才までの健全な方であれば男女を問いません。詳しくは下記飯塚青年会議所事務局までお問い合わせ下さい。

情報発信委員会

- 委員長/寺濱 剛史 ■副委員長/三木 祐太
 ■委員/石原 由香・大塚 正博・園米 征西・重松 初貴・下川 哲也・塚本 大
 福澤 文雅・藤木 秀憲
 ■担当副理事長/桑野 慎吾